

# 甲斐市立敷島北小学校 自己評価書（後期）

平成26年1月29日 作成

校長 廣瀬 文武

記述者 職名（教頭） 河西 慶仁

## 学校教育目標 「ともに学び ともに生きる 心豊かな子どもの育成」

- 知育 ・よく学び、よく考える子ども（自分の考えを持って）
- 徳育 ・思いやりのある子ども（相手の立場を考えて）
- 体育 ・健康でたくましい子ども（生活の中に運動習慣を）

### 学校経営方針

※基本：教師個々の資質・能力の向上と連帯と信頼による組織力の発揮

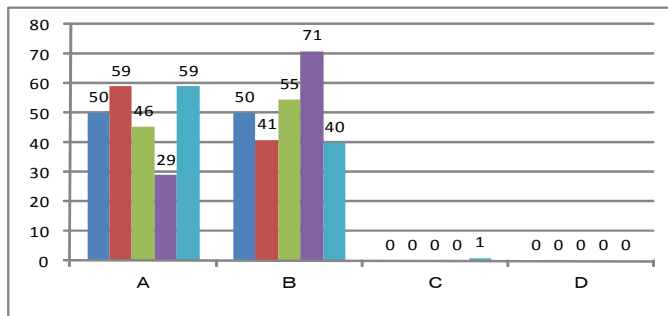
- 1 全職員が常に学校目標を意識するとともに、めざす「子ども像」「学校像」「教師像」を念頭に置き、その具現化に向けた教育実践に取り組む。
- 2 明確なビジョンを持ち、目標に向かって確実な取り組みを展開する。
- 3 P D C A サイクルを生かし、課題を明らかにして大胆な工夫や改善をしながら、より質の高い教育活動を構築する。
- 4 意欲的に研修・研究に取り組み、専門職としての資質能力の向上に努める。
- 5 特色ある学校づくり、信頼される学校づくりの実践に努める。

## 1 全体評価

全体傾向を把握するため、よい評価はA・B評価合わせて80%を超えているかどうかで判断した。また、C・D評価合わせて20%を超えている場合は、改善の余地があると判断した。

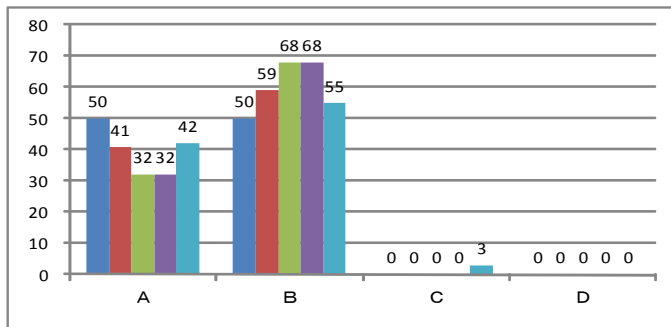
### 【教職員の自己評価から】

- ・上記の基準から判断すると、すべての項目でA・B評価となっており、C・D評価はなかった。
- ・A評価とB評価の割合を比べてみると、B評価が50%以上だった項目は、  
I-6「P D C A サイクルを生かした教育活動を行っている」（B 71%）、

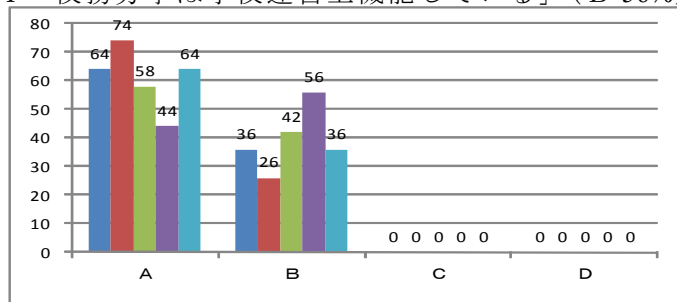


昨年度①	平成24年 6月実施
昨年度②	平成24年12月実施
前回	平成25年 6月実施
本校職員	平成25年12月実施
市全体	平成25年12月実施
A	そう思う
B	ややそう思う
C	ややそう思わない
D	そう思わない

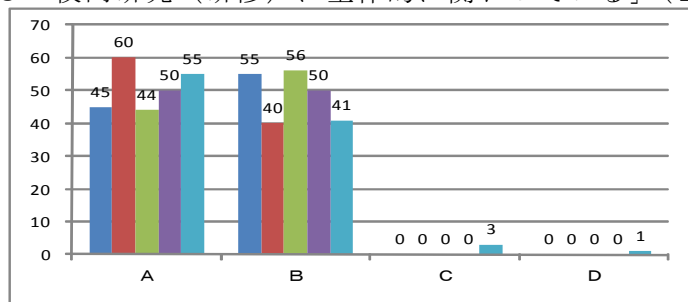
II-2「危機管理マニュアルを理解している」（B 68%）、



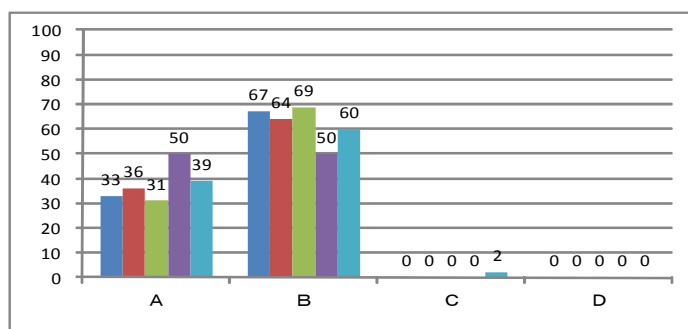
II-4 「校務分掌は学校運営上機能している」(B 56%)、



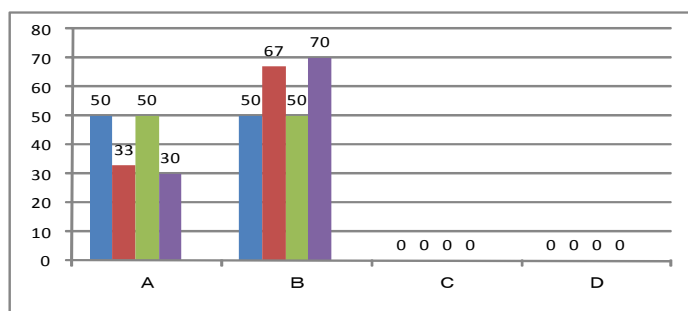
II-8 「校内研究(研修)に主体的に関わっている」(B 50%)、



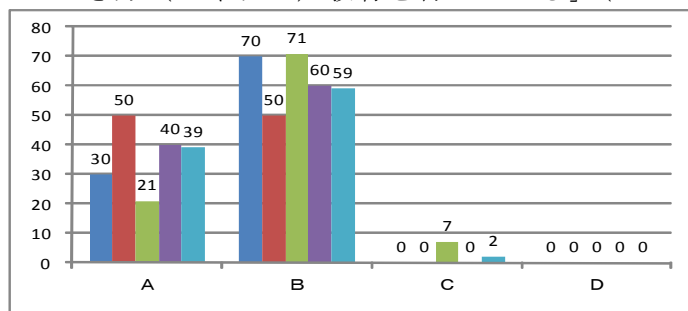
III-5 「評価基準と評価方法を明確にした授業を行っている」(B 50%)、



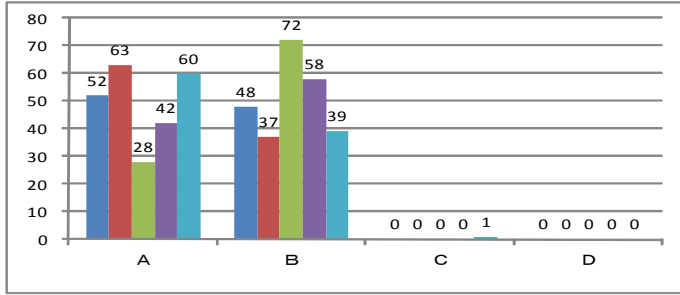
III-9 「年間計画に基づき、児童の実態に即して道徳の授業を行っている」(B 70%)、



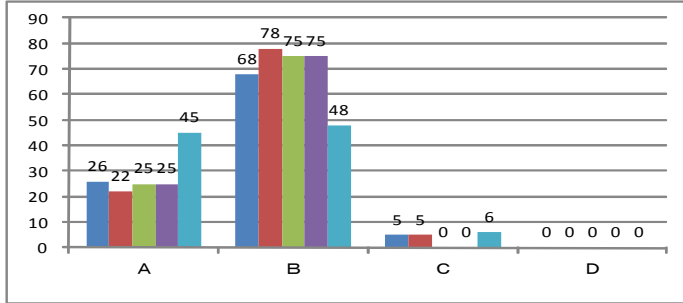
IV-3 「生き方(キャリア)教育を行っている」(B 60%)、



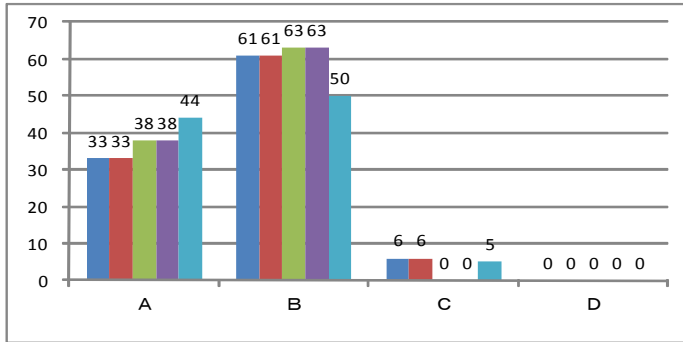
IV-4 「問題行動の早期発見・早期対応ができています」(B 58%)、



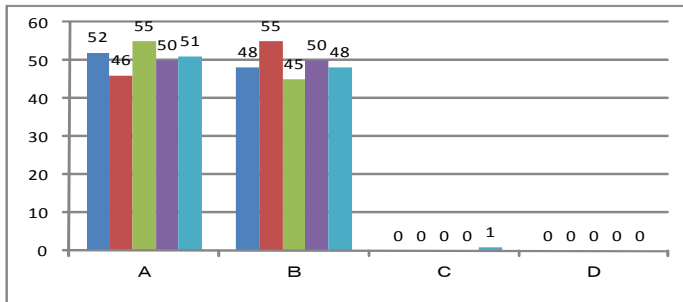
V-1 「地域の教育力を生かす指導を行っている」(B 75%)、



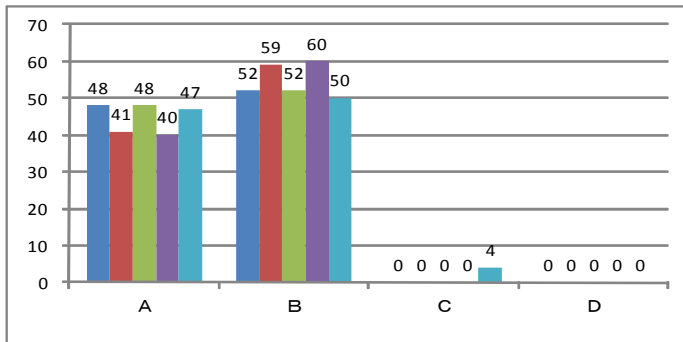
V-2 「学校に対する要望等を聞く機会を設け情報収集を行っている」(B 63%)、



V-5 「保護者はP T A活動に協力的である」(B 50%)、



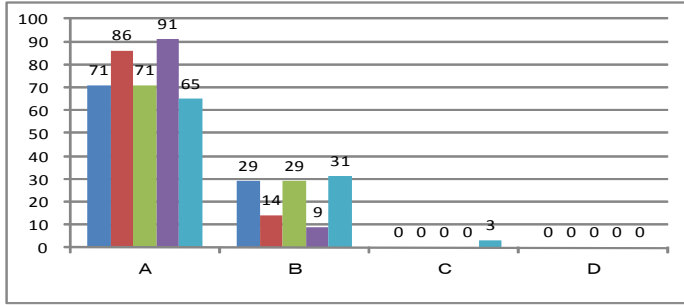
V-7 「保護者は学習指導や生活指導に協力的である」(B 60%)、



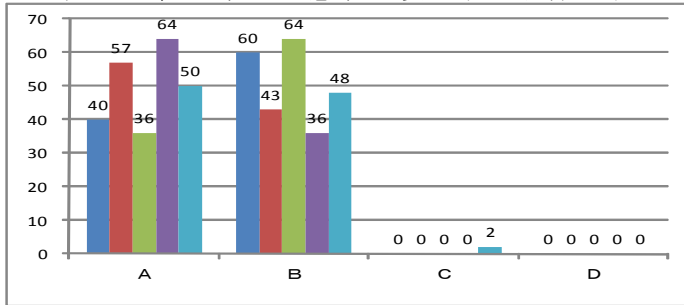
の12項目であった。

・前回（6月実施）の調査と比べてみると、10ポイント以上の伸び率を示しているものがある。

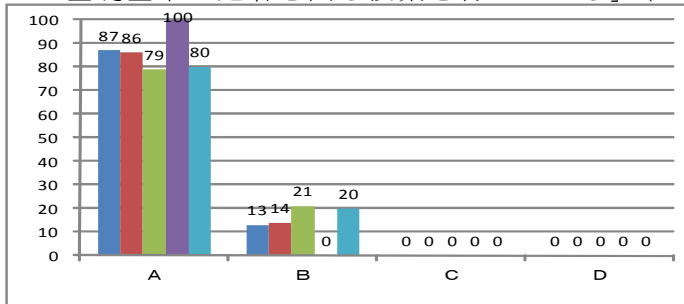
I-7 「職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている」（A+20）、



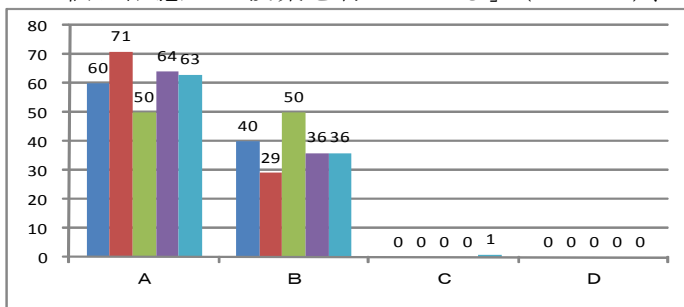
III-2 「児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている」（A+28）、



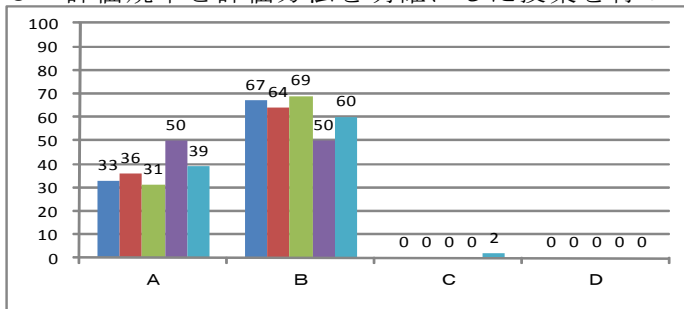
III-3 「基礎基本の定着を図る授業を行っている」（A+21）、



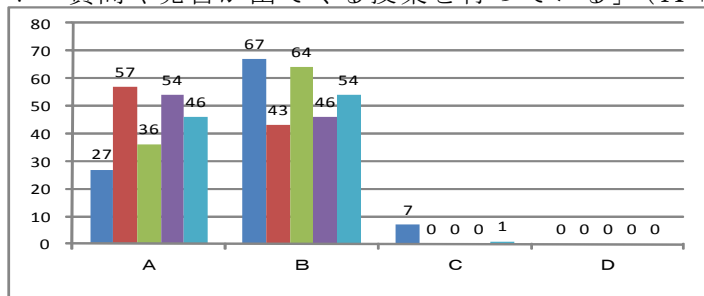
III-4 「個に配慮した授業を行っている」（A+14）、



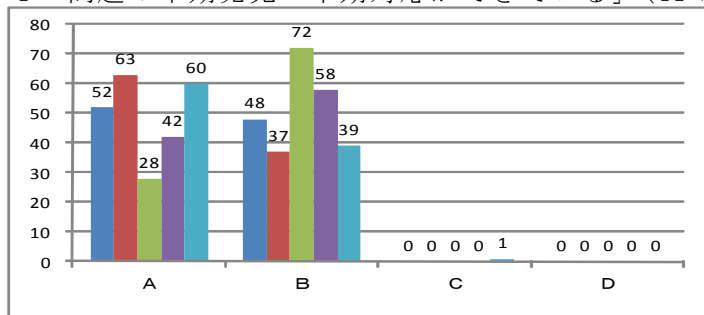
III-5 「評価規準と評価方法を明確にした授業を行っている」（A+19）、



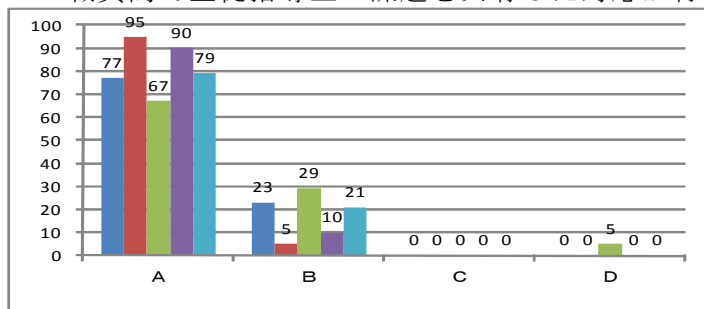
Ⅲ-7 「質問や発言が出てくる授業を行っている」(A + 18)、



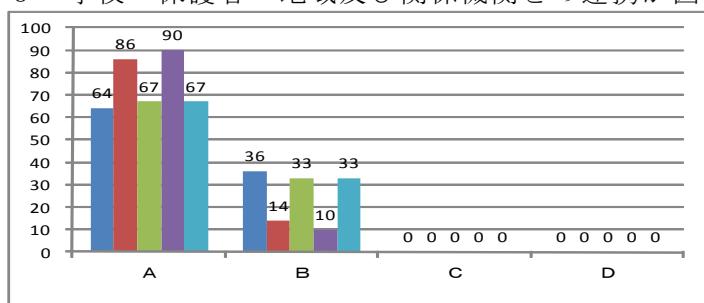
Ⅳ-4 「問題の早期発見・早期対応ができている」(A + 14)、



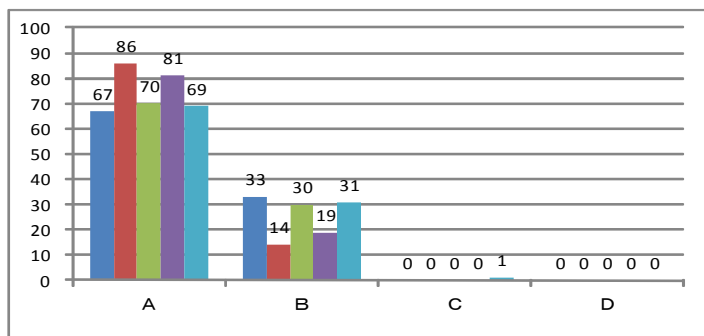
Ⅳ-5 「職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている」(A + 23)、



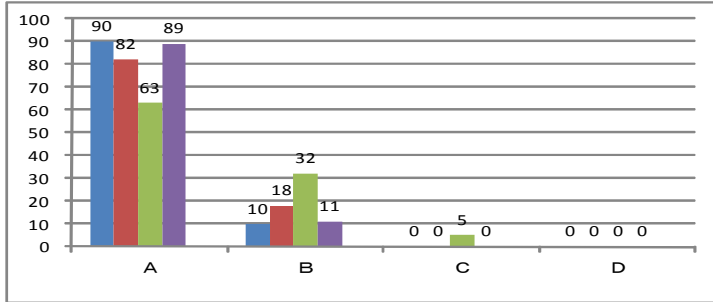
Ⅳ-6 「学校・保護者・地域及び関係機関との連携が図られている」(A + 23)、



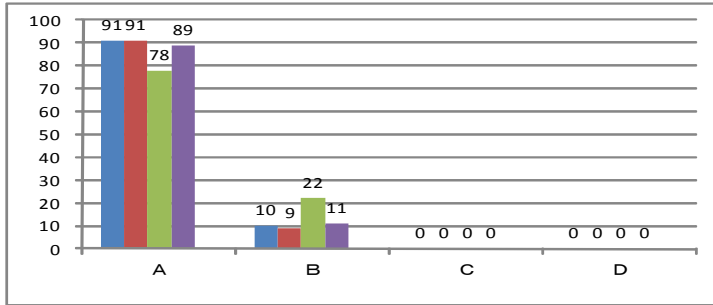
V-8 「学校評議員制度や学校関係者評価委員会の話し合い結果が学校に活かされている」(A + 11)、



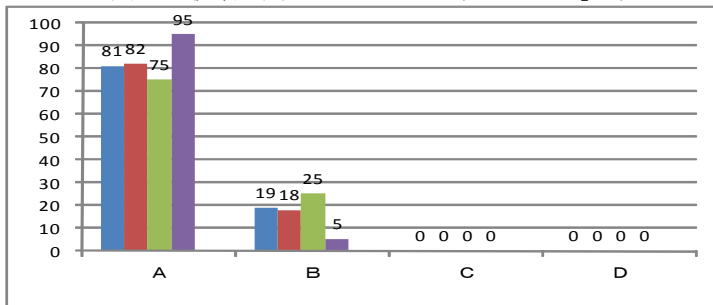
VI-3 「児童生徒が積極的に読書活動に取り組むよう指導している」(A + 26)、



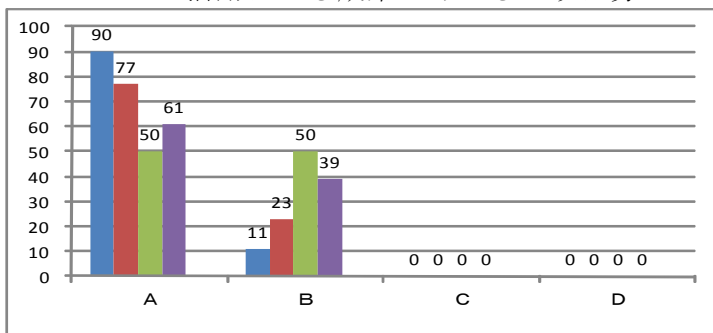
VI-4 「児童生徒が学校行事に進んで取り組むよう指導に努めている」(A + 11)、



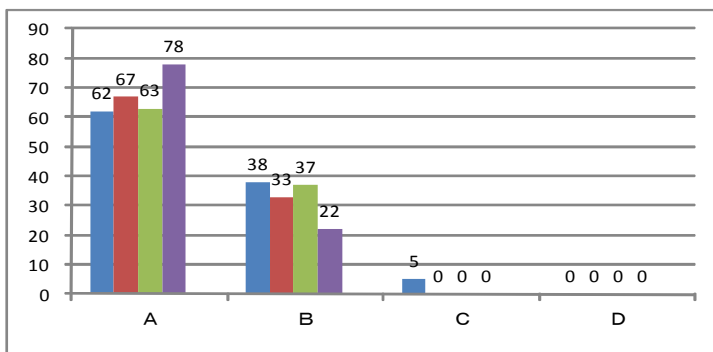
VI-5 「日課表は教育課程の運用に適切である」(A + 20)、



VI-6 「ALTの活用による成果があがるように努めている」(A + 11)、

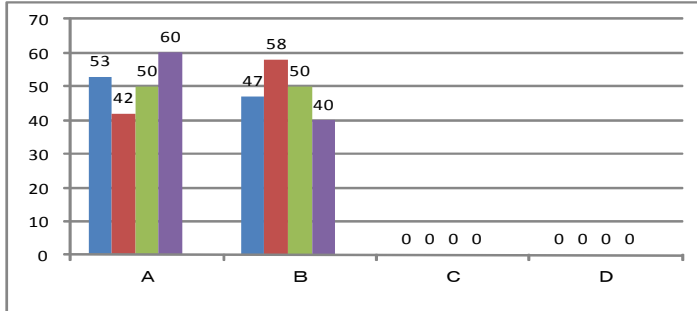


VI-7 「児童が進んで体力向上への取り組みを行うように努めている」(A + 15)、



VI-8 「特色ある生活科・総合的な学習の時間、特別活動などの取り組みに努めている」

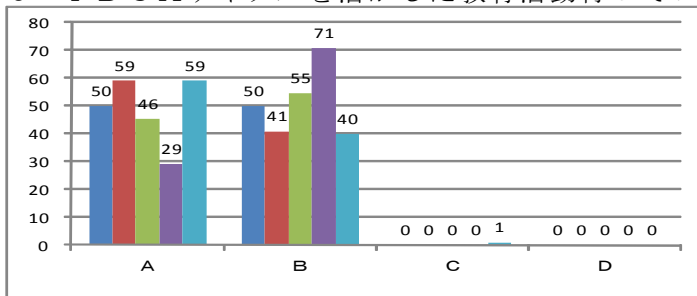
(A + 10)



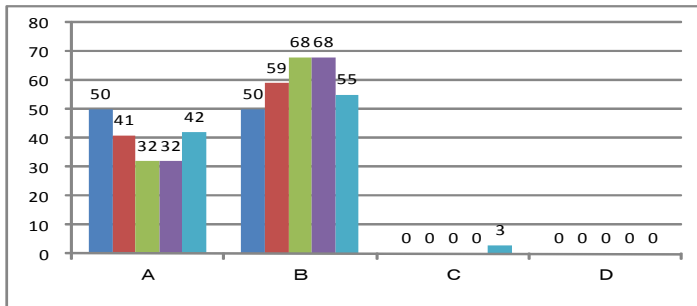
の16項目で、教職員が意識的に取り組んでいる様子が見えてくる。

- ・ A評価の割合が市と比較して、10ポイント以上下回っている項目は、

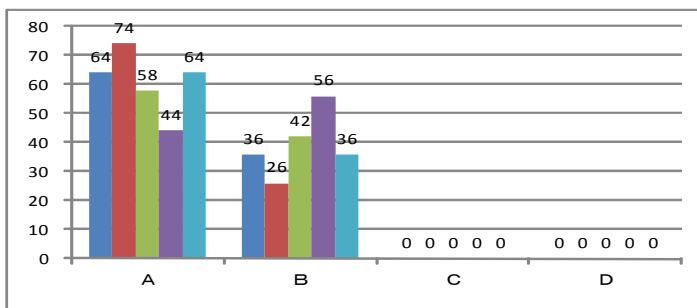
I-6 「PDCAサイクルを活かした教育活動行っている」(-30)、



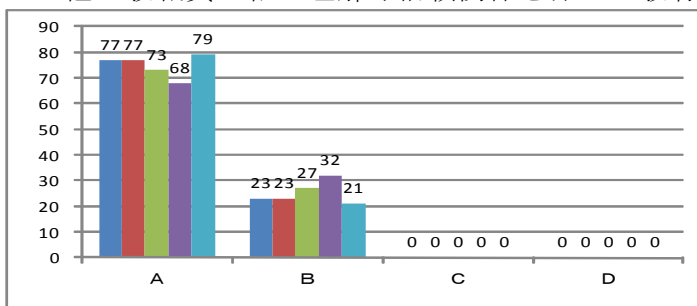
II-2 「危機管理マニュアルを理解している」(-10)、



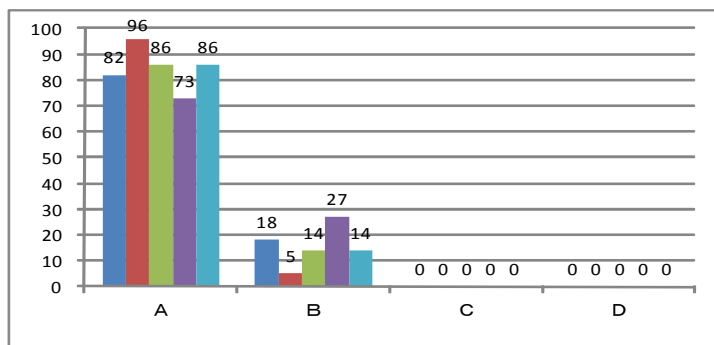
II-4 「校務分掌は学校運営上機能している」(-20)、



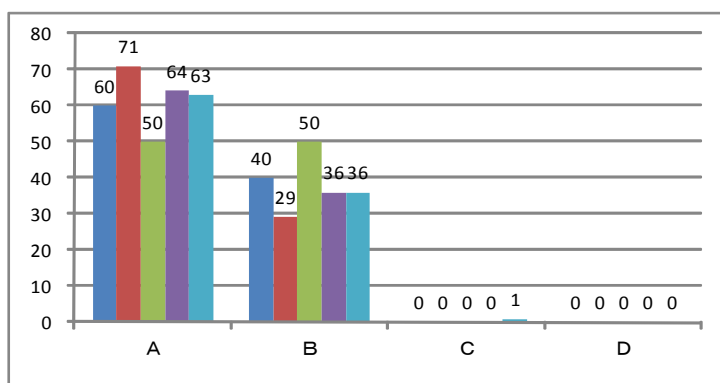
II-6 「他の教職員と相互理解や信頼関係を深めて教育活動にあたっている」(-11)、



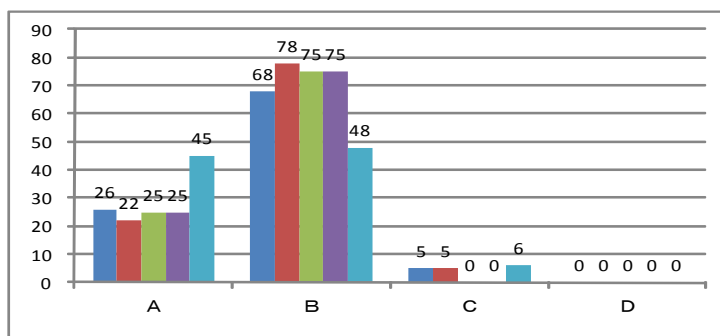
II-7 「職務上『報・連・相・確』を行っている」(－13)、



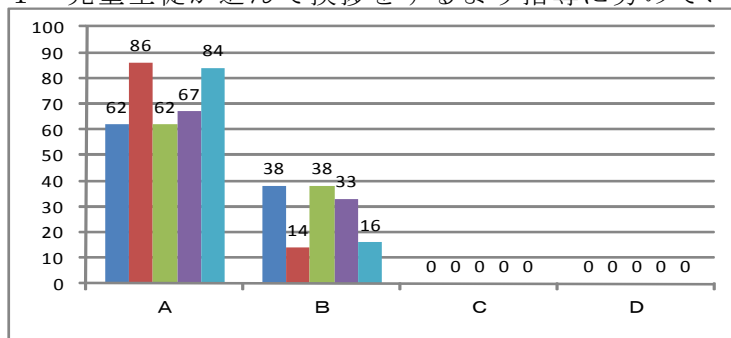
IV-4 「問題行動の早期発見・早期対応ができています」(－18)、



V-1 「地域の教育力を生かす指導を行っている」(－20)、



VI-1 「児童生徒が進んで挨拶をするよう指導に努めている」(－17)



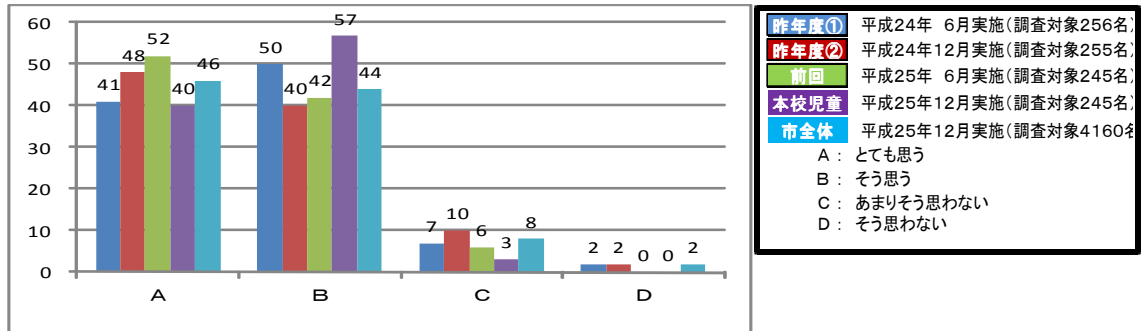
の8項目であった。

【児童アンケートから】

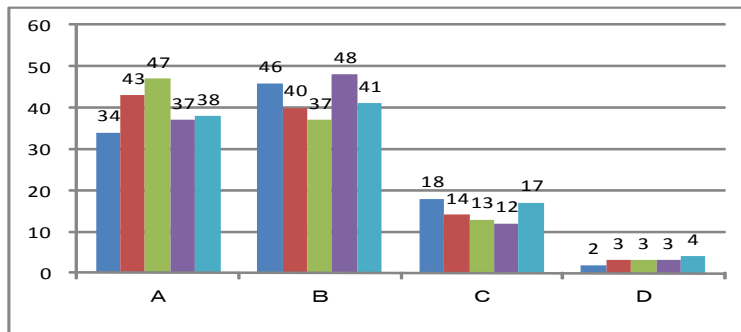
・児童のアンケート結果については、ほとんどの項目でA・B評価合わせて80%を超えている。C・D評価合わせて20%以上のものは、10「授業中に質問や意見を言っている」(CD 20%)、25「親子で本を読むことがある」(CD 65%)の2項目のみで、前回の項目と同じであった。



・児童アンケートの前回（6月実施）のA評価の割合と比べてみると、10ポイント以上向上した項目はなかった。反対に、10ポイント以上下がった項目は、  
4「人が困っているときは進んで助けている」（-12）、



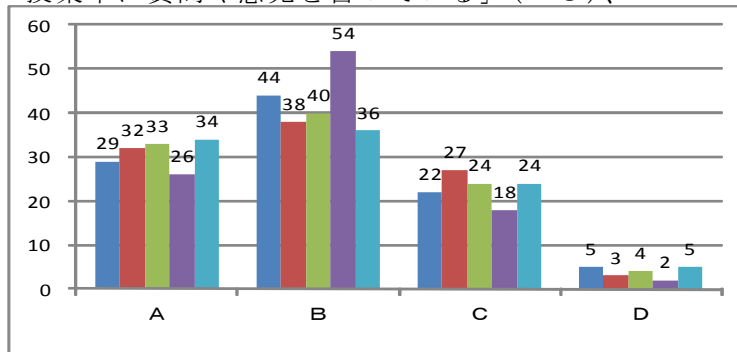
8「授業でわからないことがあったら先生に聞ける」（-10）



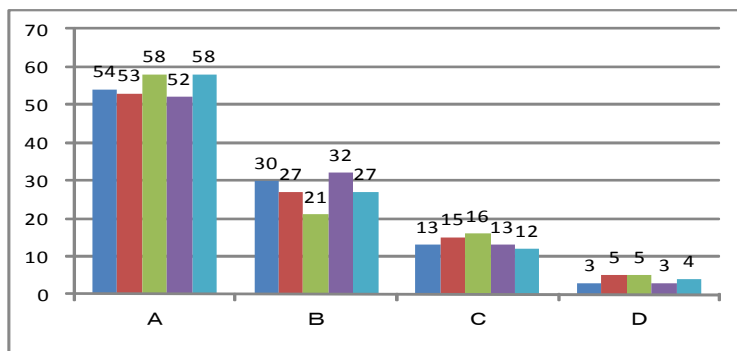
の2項目であった。

・市の平均と比較して、A評価が5ポイント以上下回っている項目は、  
4「人が困っているときは進んで助ける」（-6）（グラフ前出）、

10「授業中に質問や意見を言っている」（-8）、



13「家の人と学校での様子を話している」（-6）、



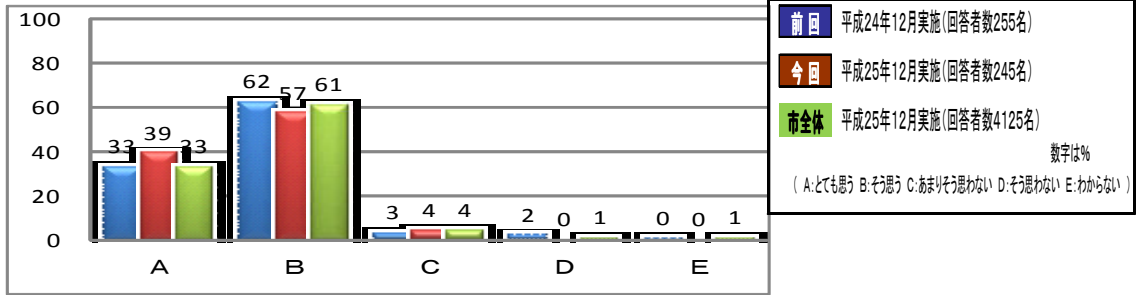
の3項目で、一部に消極的な面があるという傾向が見られた。

【保護者アンケートの結果から】

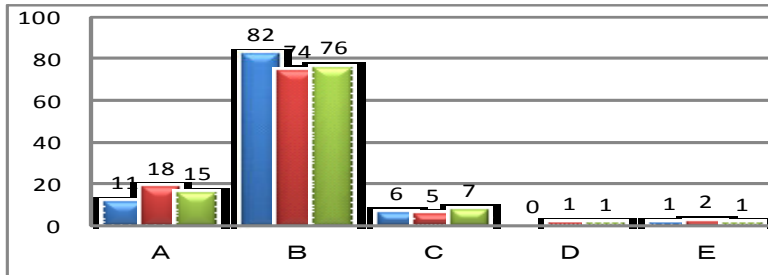
過去2年間の結果と比較をした。

- どの項目も、大きな変化は見られなかった。
- 1年前と比較して、A評価が5ポイント以上向上した項目は、

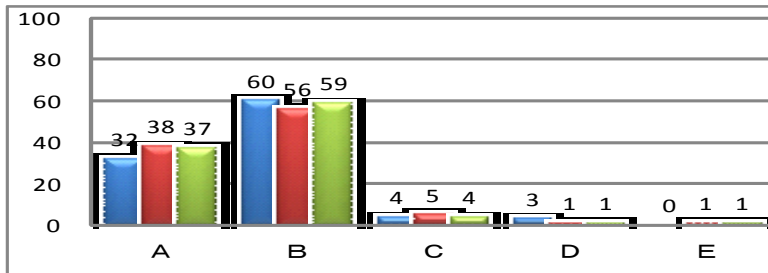
1 「子どもにとって学校は楽しいところだ」(+6)、



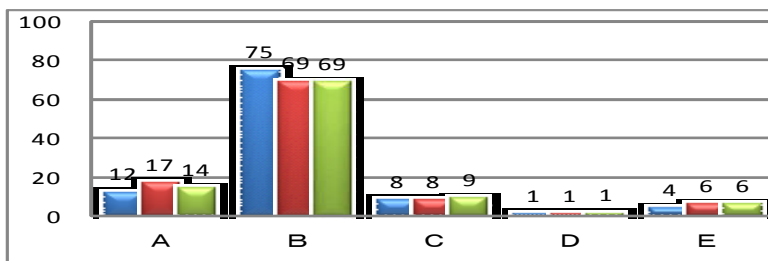
3 「学校だよりから教育活動の様子を知ることができる」(+7)、



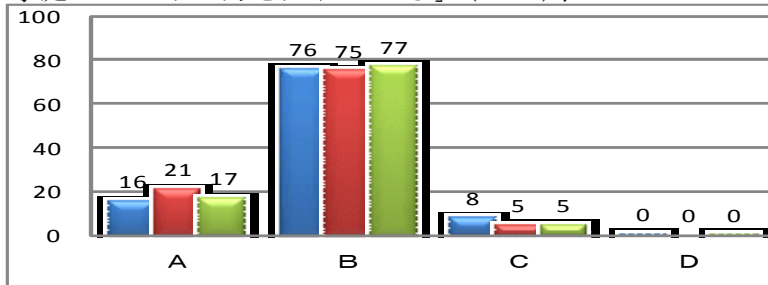
5 「授業参観は子どもの様子を知る機会となっている」(+6)、



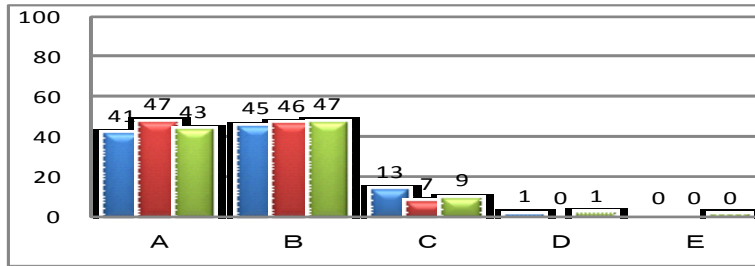
6 「学校は子ども達の間違った行動に対して指導している」(+5)、



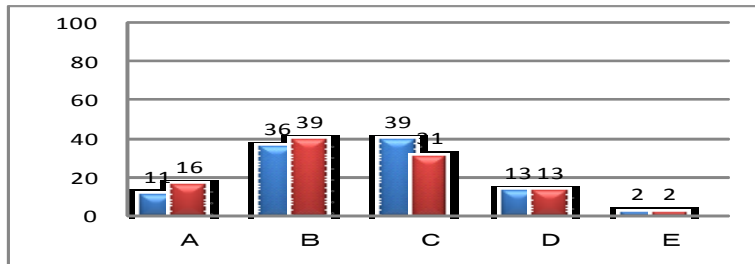
7 「家庭でしつけに力を入れている」(+5)、



18 「子どもに挨拶するように言っている」(+6)、

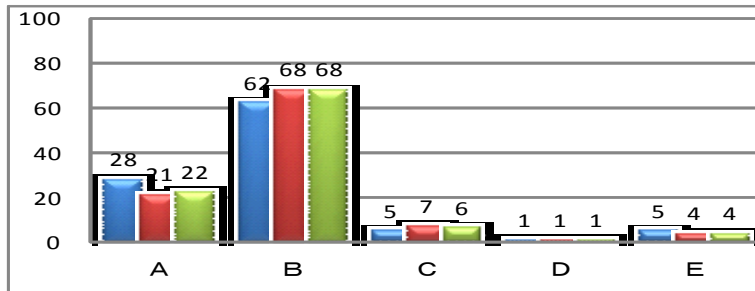


25 「親子で一緒に本を読む」(+5)



の7項目あった。逆に、5ポイント以上上がった項目は、

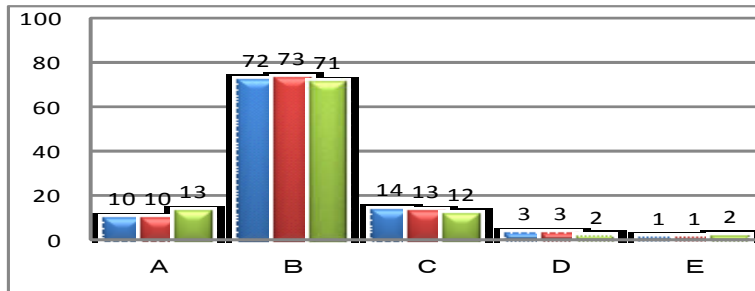
11 「学校は熱心に授業に取り組んでいる(分かりやすく教えている)」(-7)



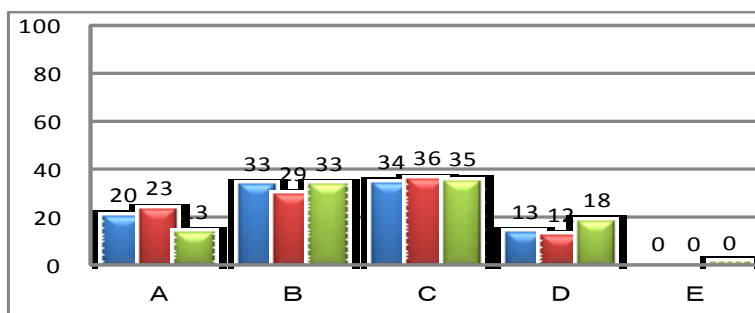
であった。

・C・D評価の割合が高い項目をみると、

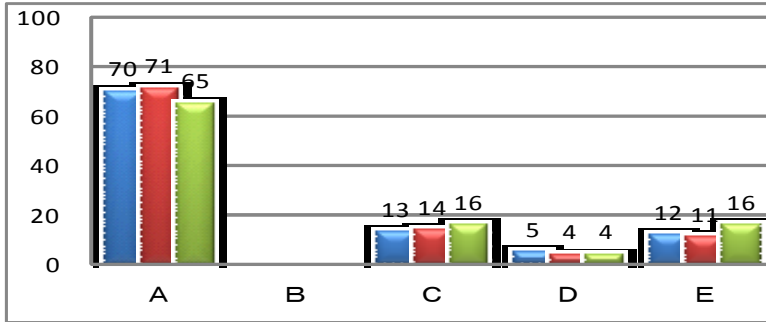
8 「おさんは授業の内容がわかっていると思う」(CD 16%)、



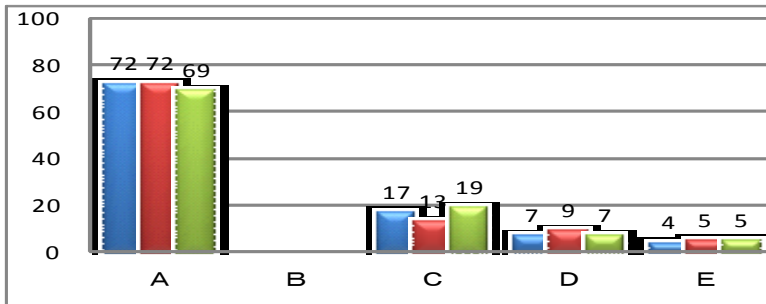
13 「自主学習をしている」(CD 48%)、



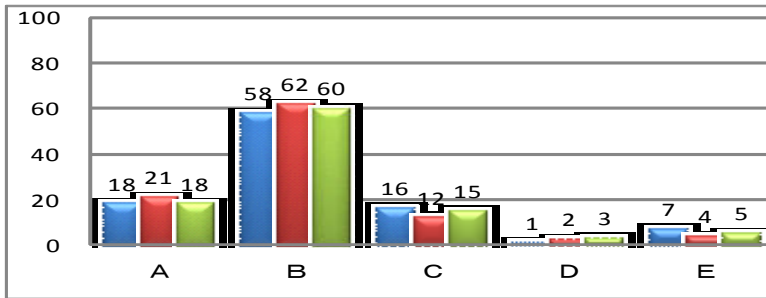
14 「お子さんに相談できる友だちがいる」(CD 18%)、



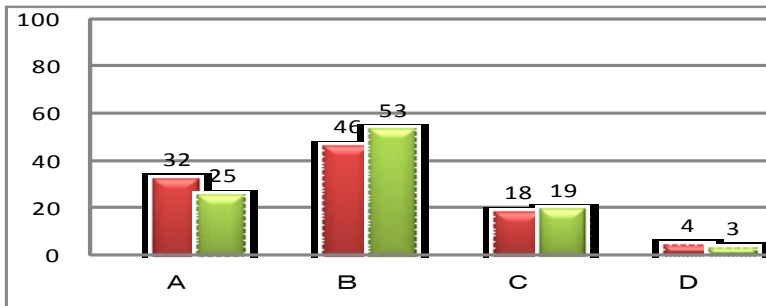
15 「相談できる先生がいる」(CD 22%)、



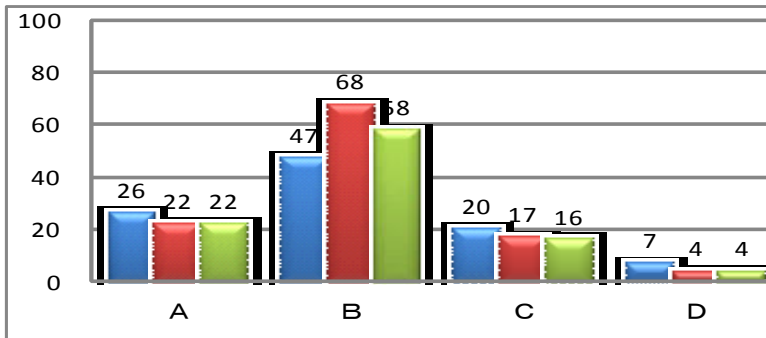
16 「学校は、挨拶するように指導している」(CD 14%)、



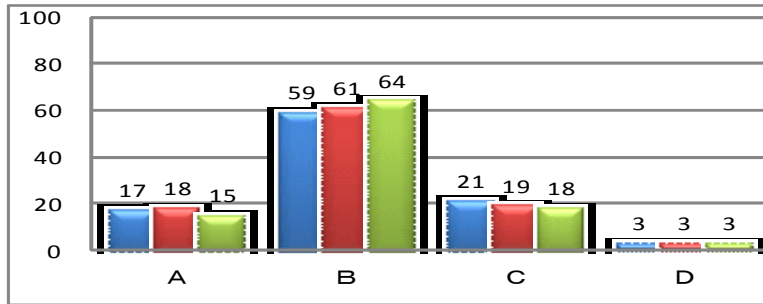
19 「子どもは地域の行事に参加している」(CD 22%)、



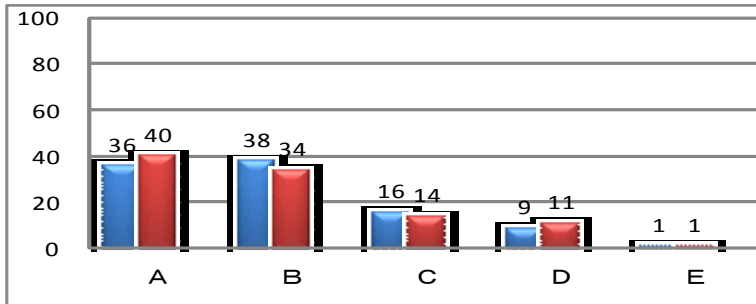
20 「PTA活動に参加している」(CD 21%)、



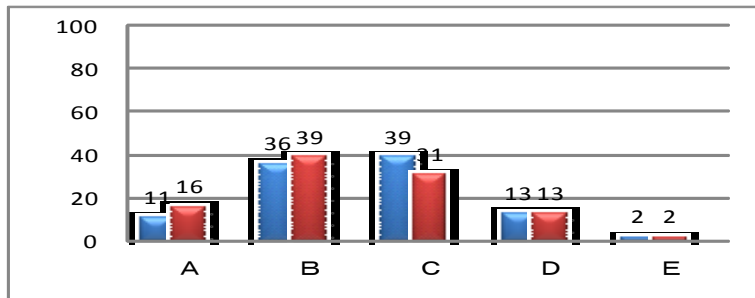
21 「お子さんは将来の夢や希望をもっている」 (C D 22 %)、



24 「お子さんは本を読むことが好き」 (C D 25 %)、



25 「親子で一緒に本を読むことがある」 (44 %)



が挙げられる。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
I 学校教育目標に関して・学校経営について	II 学校運営について
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校長から、本校の実態を踏まえた上で学校教育目標の提案が行われた。校長の経営方針の下、一人一人が新たな気持ちで教育活動を行っている。</li> <li>・年度が変わり、各自新しい校務分掌でスタートした。1学期は、学校運営上、自分の分掌がどのように機能しているか、確かめながら教育実践を行ってきた。それぞれの役割が不明確な部分も見られ、改善が図られた。</li> <li>・職員の異動が小規模だったせい、職員会議では、それぞれの提案に対して新鮮味に欠け、消極的（受け身）になった傾向がある。</li> <li>・防災マニュアルの見直しが行われ、教職員の意識は高まっているが、複雑な構造の校舎に対して、マニュアルどおりの行動は難しいため、評価は低くなっている。</li> <li>・全体的には意識を高くもって取り組んだ様子が表れている。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の人事異動では、職員の異動がほとんどなく、4月から順調にスタートすることができた。使命感を持って意欲的に職務を果たそうとする職員が多く、職員全員で学校教育目標の共通理解を図り、教育活動が行われてきた。一方、新たな分掌に戸惑うことや役割が一部不明確になる面も見られた。今後は、個々の役割を一層明確にし、職員間の連携を図りながら学校運営をしていく。</li> <li>・PDCAサイクルの実行に関しては、各行事等の終了後にアンケートを実施し、課題を明確にした上で、次回の計画に生かすよう努める。</li> </ul>

III 学習指導について（児童用アンケートの結果も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の自己評価で、III-2「学びの意欲を喚起する授業」、III-3「基礎・基本の定着を図る授業」、III-4「個に配慮した授業」、III-5「評価規準と評価方法を明確にした授業」、III-7「質問や発言が出てくる授業」等の項目で、A評価の割合が前回や昨年度より高くなっている。職員が意識を高く持って学級づくり・授業づくりに取り組んでいることがうかがえる。</li> <li>・III-3「基礎・基本の定着を図る授業を行っている」については、A評価が前回は21ポイント上回っており、校内研や、業前の児童への朝学習の取り組みを行うことにより、教師が基礎・基本の定着について、常に意識を高くもっていることが表れている。特に、本年度は、市教委から指定を受けた研究の成果を公開する年であったので、全職員が一丸となって基礎・基本の充実を目指して実践を積み重ねたことが自信につながっていると思われる。</li> <li>・児童のアンケート結果、8「わからないことがあったら先生に聞けるか」、10「質問や意見を言っているか」の2項目は、以前から本校児童の課題であったが、今回も、A評価の割合が市の平均を下回った。</li> <li>・児童12「学校以外で学年の目標時間の勉強をしているか」を見ると、本校児童の場合「A」と答えた子の割合は、市の平均を下回り、B評価は、市よりも高かった。D「まったくしない」の割合は2%であり、前回から比較すると減少した。今後も、「まったくしない」という2%の児童の指導が必要になる。</li> </ul>
改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の場面や学校生活全般においても、本校児童は、積極性に欠けると言われてきた。また、校内研究のテーマを「豊かな表現力の育成」とし、児童の表現力の育成を目指して取り組んできた。これからも日々の授業の積み重ねをし、児童が少しずつ変容してくることを期待している。</li> <li>・本年度も学校全体で「家庭学習」の定着を目指す取組を推進した。昨年度に引き続き職員会議等で共通理解を図り、学年の目安として、学年×10+10分の家庭学習</li> </ul>

策	の時間を設定した。「家庭学習の手引き」を改訂し、全児童・全世帯へ配布した。取り組みを始めて3年目を迎えるが、今後とも、家庭と連携して指導を継続し、この項目の結果を見守っていく必要がある。
---	---

<b>IV 生徒指導について（児童用アンケート結果も含めて）</b>	
達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IV-4「問題の早期発見・早期対応ができている」、IV-5「職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている」、IV-6「学校・保護者・地域及び関係機関との連携が図られている」等、前回よりもポイントが上回り、本校教職員は積極的に児童に関わり、学校全体で共通理解を図りながら生徒指導に取り組んできた結果が、生徒指導上の成果として表れている。</li> <li>・キャリア教育については、わずかではあるが、A評価が市全体の結果を上回り、昨年度までの評価を踏まえて、意識して取り組んできた結果がうかがわれる。</li> <li>・市全体と比べるとA評価は若干高いが、教師の自己評価からは、地域や家庭との連携のもとで指導しているという実感が薄いようである。</li> </ul>
改 善 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識をはぐくむ指導については、引き続き職員間の共通理解を図りながら、粘り強く取り組んでいく。</li> <li>・キャリア教育については、常に全体計画を意識し、学年ごとの年間指導計画を立て、教育課程にしっかりと位置づけ、学校教育全体で行われるようにしたい。</li> <li>・家庭や関係機関との連携がより図られるよう、これからも情報を整理し、生徒指導部会や特別支援教育校内委員会等で組織的に対応していく。</li> </ul>

<b>V 地域との連携について</b>	
達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との連携の項目では、V-3「たよりやHPを通して広報している」について、自己評価ではA評価が95%を超える高い評価であった。毎年力を入れて、HPをこまめに更新していることを評価した結果である。V-2「学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている」は、年々評価は上がってきているが、まだ、市全体よりもA評価が6ポイント下回っており、積極的な情報収集が求められる。</li> </ul>
改 善 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の分掌や立場の違いで、保護者や地域からの要望・情報収集の仕方も変わってくるので、学年部会や家庭訪問、個別懇談などあらゆる機会を利用し、情報を発信するだけでなく、保護者や地域の意見を聞くことにも力を注ぎたい。</li> <li>・学校だよりやホームページを使って、これまでどおり学校の教育活動を地域や保護者に知らせる。ホームページの更新回数を増やし、タイムリーな話題を載せるよう心がける。また、親しみを持てるように内容をさらに工夫していく。担当だけに負担がかからないように、題材の提供や取材の協力を行っていく。</li> </ul>

<b>VI 学校の特色に関して（児童用アンケート結果も含めて）</b>	
達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書活動に関して、教師は読書指導を積極的に行っている（A+B：100%）。児童の読書に対する気持ちも前向きで、90%近い児童が「読書が好き」と答えている。</li> <li>・児童 25「本を読むことが好きか」を学年別の結果をみると、全学年ともA評価が一番多いが、学年が上がるにつれて、若干読書を敬遠する傾向がある。</li> <li>・児童 26「親子で一緒に本を読むか」については、前回よりも保護者は意識して取り組んでいるという結果が出た。児童は、親子で一緒に読書する時間のA評価が前回を下回ったが、親子読書等の取り組みの成果は現れている。</li> <li>・児童 17「地域の人と出会ったらあいさつをしているか」では、1年前よりA評価が増え、69%となり、市全体よりも9ポイントほど上回った。市を挙げてのあいさつ運動がこの地域でも定着していることがうかがえる。</li> </ul>

改 善 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書に関しては、引き続き、図書だより等で保護者に対しての情報や意識改革のための資料提供を行う。</li> <li>・これからも夏季休業中に「親子読書」の取り組みを行っていく。</li> <li>・あいさつに関しては、防犯パトロール隊や地区懇談会等、地区や保護者対象の会議の折りに「声かけ・あいさつ運動」の推進をお願いしてきている。だいぶ改善されてきたので、これからも、あいさつ・声かけ等を地域・保護者と共に協力して行っていく。</li> <li>・児童会の「あいさつ運動」と連携して継続して指導していく。</li> </ul>
-------------	---

### 3 まとめ

#### 〈成 果〉

昨年度の学校評価から次の点が課題として上がっていた。

- ①「児童アンケートの結果が市全体と比較するとA評価が少ない（積極的に肯定できる項目が少ない）ので、自己肯定感を持たせる指導をしていく」
  - ・だいぶ改善され、A評価が前回よりも多くなった項目が増えた。
- ②「家庭学習の時間の定着」
  - ・「家庭学習の手引き」を改訂し、家庭へ配布したことにより、学年で推奨している時間に達している児童が増えている。
- ③「キャリア教育」
  - ・「全体計画」から各学年の年間指導計画の作成を行い、教師の意識をさらに高め、実践を積み重ねていく。
- ④「地域の人材活用」
  - ・必要に応じて、各学年で活用を図っている。これからも、情報を共有することで、より有効な活用を図っていきたい。また、「おやじの会」は、田んぼの管理等、米作りの指導を中心に協力していただいている。

#### 〈課 題〉

- ・来年度に向けて、さらに「家庭学習の時間」を定着させることと、「まったくしない」と回答した2%の児童の指導を引き続き行う必要がある。
- ・V-2「保護者や地域の願いに応えるため要望等を聞く機会などを設け、情報収集を行っている」は、引き続き、家庭訪問や個別懇談の機会だけでなく、それぞれの立場や分掌で意識的に情報収集を行うことが必要である。



